

# ナマステ



特定非営利活動法人  
自然文化誌研究会 会報誌

## 155 号

2024 年 8 月 25 日発行号

## 「INCH(祭り)ライブ 2024」 10.5~10/6(1泊 or 日帰り)

秋の一大イベント「INCH 祭りライブ」を開催します！  
ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら  
過ごしませんか！！ 音楽を愛する方は楽器持参で、  
腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪  
音楽しない方はのんびりしていても、もちろんOK です  
よ〜♪ 冒険学校スタッフの普段とは違う顔も見られま  
すよ！！



- 日程 10月5日(土) 16:00 開演~10月6日(日)  
日帰りもOK、早く来られる人は一緒に準備を！
- 会場：清水バンガロー (小菅村いつものキャンプ場)
- 対象：子ども単独での参加はできません(全員が参加  
者になるので冒険学校的なスタッフはいません)
- 費用：日帰り 1,500 円 宿泊 3,500 円 食事付
- お酒はカンパ制です。持ち寄り大歓迎！！
- 温泉代は各自(割引券アリ)です。
- 交通機関  
※小菅村までの交通は自力になります。
- お申し込み：9/30 までに事務局までご連絡ください。
- 10/6 は予定が無いのでのんびりしてってください。

## 『こすげ冒険学校』を開催しました！！



## 2024 年度こすげ冒険学校後記

こすげ冒険学校村長 贄田(にえだ)隼人(自然文化誌研究会運営委員)

8月3日から9日にかけて行われた、2024年のこすげ冒険学校が無事に終わりました。今回は26名の参加者となり、ここ数年でも特に人数の多いものでありました。また、今までも夕立があったり、台風の接近で終日雨なんて日があったりはしましたが、今回は初日と最終日を除く中5日の全てで雨が降ったという点でも珍しいものだったと思います。

午前中の晴れている時間には川遊びをたくさんしました。川の冷たさに最初は悲鳴を上げていましたが、それよりも川の中の景色に多くの子が魅了されていました。ゴーグルや箱メガネで岩陰を泳ぐヤマメなどの魚を見つけると、みんなで追いかけて、多い日には5匹ほどバケツに入っていた日もありました。

水の掛け合いももちろん楽しいのですが、個人的には飛び込みがなにより面白いです。少し高い岩場に立ち、流れる川を目の前にする緊張感。意を決して飛び、川に沈んでいくときの冷たさ。頭のとっぺんまで水を感じたところに体が浮き始め、川の流れて足が立つところまで来たときの安心感（スタッフはだいたいここで水をかけられます）が他にはない経験です。今回もリピーターの参加者やスタッフが飛びのを見て、自分も！と挑戦し、飛び込みの気持ちよさを味わった子がたくさんいて嬉しいです。

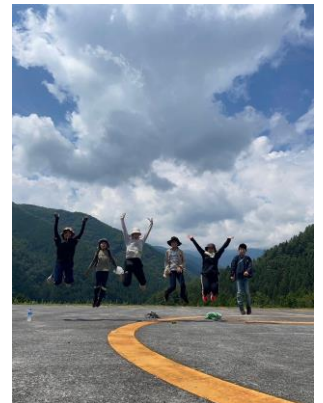
下流に大きな石を積み水かさを増やすこと（ダム作り）や、上流に石を並べ大きな水の流れを作ること（ウォータースライダー）も川遊びの楽しみ方の一つです。今回は午後からの雨で崩れてしまう場面もありましたが、それもまた水の流れの強大さを感じ取る一因となったのではないのでしょうか。

午後は雨が降ることが多かったので、工作や焚き火、それとゲームを楽しむ子が多かったです。やはり焚き火の魅力は何事にも代えがたく、落ちていた石を焼いたり、山から持ってきた杉の枝に火を移してみたりと思いつくまま色んな楽しみ方をしていました。そうはいても、子どもたちも初めから火を上手に扱えたわけではありません。マッチだけを燃やし、首をひねっていた子もいましたし、そのままの新聞紙に火をつけ、板に燃え移るのを期待する子もいました。その試行錯誤をスタッフは見守り、一緒に楽しめます。「どうして新聞紙には火が点くけど、木が燃えてくれないだろう。」「マッチだけでは火は大きくならないんだ。」子どもたちはたくさん考え、学んでいきます。時には自ら気づき、時にはスタッフからやり方を聞き（スタッフによって教える内容はそれぞれです）、だんだんと上達していき、大きな焚き火を作ったり、お風呂を沸かせるまでになりました。

また、雨も多かったのでゲームをして過ごす時間も多かったです。ウノや大富豪といったカードゲームやログハウスを使ったかくれんぼなどが行われる中で、子どもたちからも面白かったという声が多かったのはモルックでした。数字の書かれた12本のピンを倒し、指定された点数を目指すスポーツです。本来の遊び方であるチーム戦、人が少なければ個人戦のルールを考え楽しむなど、集まった人数や年齢に合わせて柔軟に対応しながら遊んでいました。ルールが単純だからこそ誰でも遊びやすく、また、倒れたピンの位置で場が広がっていくので同じ展開はない偶然性が魅力です。

ここに紹介した遊びは、子どもたちが過ごした7日間のほんの一部でしかありません。それくらい、子どもたちはよく遊び、小菅というフィールドを味わい尽くしてくれました。そんな子どもたちとともに冒険学校を楽しみ、そして支えてくれたスタッフのみんなには感謝するとともに、これからも面白いことをやっていければと思っています。

最後に、こすげ冒険学校に携わった人すべてが、面白そうなこと、楽しそうなことへのアンテナをこれからの生活でも生かし、冒険心をもって過ごしていくこと願って、結びとさせていただきます。



## ＜参加者の感想＞

### 矢部湊人くん（小学校4年生）

僕が小菅冒険学校での楽しかったことは川遊びや、焚き火、食事作りです（食事）川遊びでは、川に潜り魚を捕まえたり、カニを捕まえたり、釣りでは一匹もつれなかったけれどとても楽しかったです☺

焚き火（たき火）は、マッチなどで燃えやすい素材から燃やしていくなど、いろんな所で頭を使いました!!  
ピザ窯を一から組み立てて、自分でコネたピザの生地到自己が好きな具材を乗せられたことは嬉しかったです☺サイコーに美味しいピザでした（最高）

明日何をしたいかなどの夜のミーティングでは色んな意見が出たけれど、ダニエルやチャーター、スタッフの皆さんは、とても優しく聞いてくれて色々なことを教えてくれました!!  
来年も絶対に参加したいです☺

### 井上真依さん（小学校4年生）

一番楽しかったことはピザ作りとブランコです。ピザ作りは来年はピザ窯から一緒に作りたいたいです。今回はみんなとログハウスで寝られて楽しかったです。

## 井上敬生くん (小学校6年生)

今回の冒険学校は前回より人数が多く、色々な人と遊ぶ機会がふえて盛り上がりました。一番楽しかったことは、みんなでウォータースライダーを2日かけて作りすべったことです。はじめは流れが遅かったけど、川の底を掘るにつれ流れが強くなりました。1回目にすべった時はお尻をぶつけたのでリベンジして深く掘りました。その後のスライダーは最高でした！来年はまたみんなと会ってモルックをしたいです。

## 池森にくん (小学校4年生)

○キャンプでは、毎食後、食器を水で洗えなかったため、消毒液をつけたティッシュで拭いたり、お湯を注いだりして、食器をきれいにするのが大変でしたが、川をきれいに保つ努力を学びました。

○モルックを知って、みんなで楽しめたのがよかった。またやりたい。

○ナイフ作りでは、まず、アルミ板をナイフの形に切るのが難しかった。ナイフの刃のところをトンカチで叩いて薄くしたけど、それでは切れなかったため、砥石で磨いて研いだ。そのナイフで草がスパッと切れたのが気持ちよかった。でも、それでは危険なので、鞘も作った。

○白糸の滝の近くでは、しぶきを浴びて、とても気持ちよかった。そこにずっといたかった。

田舎の蚊は刺されたら、都会の蚊よりもすごいから怖い。

○燃やすところが雨で濡ってたので、中々火がつかなかったけど、酸素の通り方を考えて薪を入れて、火を起こし、お風呂を沸かしたのは大事な経験だった。

## <スタッフの感想>

### 室萌子さん (もえこ=東京学芸大学2回生)

約1週間ありがとうございました。

初参加で不安や緊張がありました。皆さんの優しい声掛けやサポートのおかげで楽しい思い出になりました。

自然の中で、普段では味わえない経験ができ、子供たちに負けないくらいキャンプを楽しみ尽くすことができました。

他のスタッフのみなさんに感化されながら成長できた1週間でした。さまざまな考え方や価値観がある中で、「子供たちのために」という共通認識のもと、尽力している姿に感銘を受けました。

自分もその一員になれたことが大変嬉しかったです。

誘ってくださった方々、このような貴重な機会をありがとうございました。是非また参加させてください。

### 田中麻結さん (でんでん=東京学芸大学1回生)

今回は三日間しか参加することができなかったが、とても楽しかったと同時に有意義な時間であったと感じた。途中参加ということもあり、馴染めるか不安であったが、子供たちが初日から声を掛けてくれたため、とても助かった。そのおかげもあり、たくさんの子と喋ることができ、一人一人の個性を掴むことができた。ただ、叱ることがとても難しく、その基準もよく分からなかったため、肯定することしか出来なかったのが、反省どころであると感じた。子供達と遊んでみて、自分の素で接することが彼ら彼女らを1番楽しませることができるということに気づかされた。

私自身が楽しむことが、一緒に体験することへと繋がると感じる。また、知識不足を大きく感じた。質問をされても、「なんでもかなー、こうじゃないー？」と曖昧な答えしか出すことができず、とても悔しかった。自然に関する知識を持つことは、児童の興味を増進させ、次に何を取り組みれば良いのかを明確にすることができるため、大切だと感じた。

また、今回小集団に行けてとても良かったと思う。雫さんをはじめ先輩陣から、焚き火の事、テントのこと、雨の際の準備方法など、様々なキャンプ場で生き延びる知識を教えてもらい、子供達に伝えるべきことを学ぶことができたため、自分自身の成長に大きく繋がった。スタッフの成長のための小集団は有意義なものであると感じる。

たくさんの方々に支えられてとても助かりました！本当にありがとうございました。次回はフル参加目指してみます！

### 福嶋亜依さん (ちゅわん=東京学芸大学3回生)

今回のキャンプでは、3年生にして初めて体験したことがたくさんあり、川遊び、沢登り、ドラム缶風呂、五右衛門風呂、釣り、小集団、今まで感じられなかったキャンプの楽しさを身をもって実感することができてとても嬉しかった。

係を担当している仕事では、特にナイフ作りにおいて、刃に終わらず、柄と鞘も作って完成させている子がほとんどだったことが、過去と比べた時に変化している点だと感じられた。

また、作るに終わらず、砥石で研いで野菜を切るところまで自分の意思でやり、

使えた！という嬉しさや、達成感の表情も表れていた子がいたことも喜ばしく思う。

今回、川遊びを始めとした初体験のことと仕事で違いとして考えられることは、

仕事は子供の制作を見守る・見届ける姿勢でいられることが多いことに対し、川遊びなどは子供が感じている楽しさを自分も同時に感じられることだと思われる。

新しい「楽しい」を発見しつつ、それぞれにそれぞれの楽しさがあることを今回実感を通して感じられて、とってもとっても楽しかった！！



National Institution For Youth Education  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を  
おこそう

令和6年度の助成を受けて開催しました。

## 夏のボーナスの終わりに、九州で温泉旅行をしようの会

鈴木風馬（自然文化誌研究会運営委員）

### 1.はじめに

これまで、国内各地を旅してきたが、初めてレポートのようなものを書いてみたので、ナマステに初寄稿してみる。

今回の旅は、INCHスタッフの大窪（青樹）氏と共に、敬老の日の連休を使って九州へ出かけた件である。旅をしながら文章を書いているので、つながりが悪かったり、読みにくい箇所も多いと思うが、旅の雰囲気伝わればと思って書く。

### 行程

1日目 2023.9.16

岩槻→大宮→新橋→浜松町→羽田空港→福岡空港→博多→熊本→阿蘇→鍋ヶ滝→阿蘇内牧温泉

2日目 2023.9.17

内牧温泉→阿蘇山草千里→阿蘇→宮地→豊後竹田→大分→別府

3日目 2023.9.18

別府→鉄輪温泉→地獄めぐり→別府→博多→福岡空港→羽田空港→品川→大宮→岩槻

## 1日目 2023.9.16 さいたま 晴れ

岩槻 5:17→(東武野田線普通船橋行き)→5:26 春日部 5:35→(東武伊勢崎線特急スカイツリーライナー2号浅草行き)→6:03 曳舟 6:11→(東武伊勢崎線準急中央林間行き)→6:13 押上 6:25→(都営浅草線エアポート快特羽田空港行き)→7:20 羽田空港第1・第2ターミナル→羽田空港 8:30→(ANA243 便福岡行き)→10:20 福岡空港→福岡空港駅 10:45→(福岡市地下鉄空港線筑前前原行き)→10:50 博多 10:58→(九州新幹線さくら575号鹿児島中央行き)→11:35 熊本 11:51→(豊肥本線特急あそ1号宮地行き)→13:02 阿蘇→(レンタカー)→鍋ヶ滝→阿蘇内牧温泉 旅の宿 阿蘇乃湯

前夜仕事を終えてから新潟から埼玉へ移動し、実家に泊まった。

4:30、起床する。かなり眠いが、今日は羽田 8:30 の飛行機に乗るので頑張って空港へ向かう。5:00、大窪氏との合流のため、岩槻駅へ送ってもらう。乗るのは 5:17 発岩槻始発船橋行きである。5:26、春日部着。5:35 発特急スカイツリーライナーに乗り、6:03 着の曳舟で下車する。土曜日ということもあってかかなりガラガラで1両に数人しか乗っていない。

おそらく北春日部の車庫から浅草へ送り込む列車を客扱いしているだけなのだろう。平日はもう少し混むのかもしれない。複々線を快走しあつという間に北千住を過ぎると、もう曳舟である。次に乗るのは 6:11 発の準急中央林間行きで、押上まで一駅である。

ここで大窪氏が到着し、ホームで合流した。押上で都営浅草線の 6:25 発エアポート快特羽田空港行きに乗り継ぐ。空港まであと 1 時間ほどである。座席は塞がっていて、大荷物の人も数名見受けられた。品川からはエアポート急行に変わり、蒲田で特急の待ち合わせをして、7:20 に羽田空港に着いた。まずはチェックインし、搭乗券を出力し、手荷物は持ち込むことにして、保安検査場を通過する。3 連休の朝イチなので凄まじい混雑であった。乗るのは 8:30 発の福岡行きであるが、買い物をしたり食事をとったりする余裕はなく、流れるように搭乗口へ向かった。機材は B787 で、かなり新しめの機材であった。機内アナウンスによると満席らしい。やはり空港は余裕が必要だなと思った。この先福岡ではタイトなスケジュールなので、ちょっと心配だ。

離陸前のアナウンスでは、福岡着は 10:25~10:30 とのこと。10:45 の地下鉄には乗りたいが、乗れなければ新幹線はキャンセルし、後続の自由席に乗ることにする。長い長い連絡路を走り、8:50 頃に C 滑走路より離陸。後ろの方の席だが、ほとんど揺れず素晴らしい離陸であった。あつという間に雲を突き抜け、晴れの下へ出る。座席の背面に画面がついており、映画やテレビ番組が見られるようだ。高度、気温、緯度経度、速度、残りの距離などフライトの情報も出てくる。隣席の大窪氏は前日の残業の疲れか睡眠モードである。ぐんぐん高度を上げ、機長アナウンスでは高度 40000ft(約 12000m)とのこと。良好なコンディションでフライトできるらしい。私は宮脇俊三著「インド鉄道紀行」を読みつつ過ごす。今回は進行右側の席で、富士

山は見えなかったがハケ岳が見えた。琵琶湖上空あたりで飲み物が配られた。お茶、コーヒー、ジュースがあり、リンゴジュースにした。よく冷えていて、うまい。地形の特徴から敦賀市が見え、ほとんど揺れることなく飛行機は快調なフライトで進む。大窪氏は機内サービスの映画を見ていた。今はマリオの映画のようだ。眠気は少し感じるが、本を読み進める。9:40頃、岡山付近の上空を飛行中で、高度は12192m、気温-55℃、対気流速は839kmph(約523km/h)、対地速度は841km/hで、残りの飛行距離は277km、あと35分ほどで着くようだ。到着予定も定刻より1分早い10:19とのこと。このまま縮めてくれれば余裕ができるので、頑張っで欲しい。広島上空を通過したあたりで、高度を下げ始めた。少し揺れるが、まだまだ余裕である。下関を過ぎて一気に高度を下げ、かなりの揺れを感じつつ10:12、福岡空港に着陸した。5分ほど早く扉が開きそうだ。定刻10:20頃から降機開始となり、10:30には到着ロビーに抜け、10:35頃には地下鉄のホームに行くことができた。預けなかった判断は正しかった。10:38 発の姪浜行きに乗り、10:43 博多駅で下車。すぐにきっぷ売り場に行き、ネット予約の受け取りをする。こちらも凄まじい混雑で、少し手間取り、10分ほどかかってしまった。ダッシュで新幹線の改札へ向かい、14番線の10:58 発さくら575号に飛び乗る。かなりギリギリであったがなんとか乗ることができた。新大阪からの直通なので、N700系で指定席にしたので2+2列の広い席であった。ほぼ満席のようで、スーツケースがたくさん網棚に乗せられていた。福岡へ降りてから天気は良く、熊本も阿蘇も雨は降っていないようなので、いい天気で旅ができそうだ。11:35、熊本駅に到着。駅前に出てみる。何度見てもこの黒い駅舎の熊本駅は見慣れない。



写真1 熊本駅にて くまモンと大窪氏

在来線ホームへ移動し、11:51 発特急あそ1号宮地行きに乗り込む。怒った熊のような赤色の気動車2両編成で、自由席はまばらな乗車率であった。熊本市街地にもこまめに停まりつつ、大津からは急坂を駆け上がり、阿蘇の外輪山へ取り付く。立野駅では豊肥本線のハイライトであるスイッチバックを通り、さらに阿蘇カルデラへ向けて坂を登る。天気は良く、美しい阿蘇山と共に熊本地震で崩落した阿蘇大橋の遺構なども車窓に見えた。赤水から先は、カルデラの中の高原を快走し、右手に阿蘇山を望みつつ13:02、阿蘇駅に着いた。

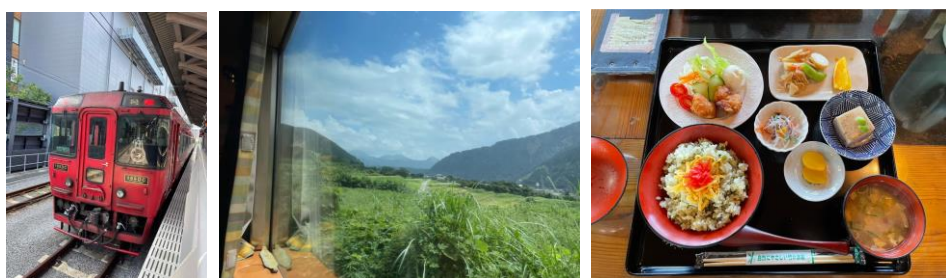


写真2 特急あそ1号(キハ185系気動車)と外輪山へ挑む車窓

写真3 阿蘇駅の食堂の高菜飯

駅舎の食堂で高菜飯をいただく。阿蘇は高菜がうまいらしい、実際美味しい。

駅前のレンタカー屋でレンタカーを借り、カルデラを北へ走って小国町の鍋ヶ滝へ向かう。これは大窪氏リクエストのスポットで、滝壺の裏が侵食されていて人が入れるくらいの洞窟になっている滝である。流れ落ちる水は少なかったが、神秘的なスポットであった。



写真4 鍋ヶ滝 滝の裏に入ることができる

15:30 頃に出発し、カルデラの展望台、大観峰へ行った。夕方に差し掛かる美しい景色と共に、阿蘇カルデラが一望できて美しかったが、残念ながら阿蘇山本体は霞に隠れて見えなかった。



写真5 大観峰（外輪山北側の展望地）にて

16:30 に大観峰を出発して、16:50 頃に今夜の宿「旅の宿 阿蘇乃湯」さんへチェックイン。まずは荷物を置き、風呂に入った。部屋は 6 畳間だが、2 人なのでちょうどいい。館内の雰囲気もよく、温かみのある内装であった。風呂は日帰り入浴施設と共用で、内湯が 1 つ、サウナはないが水風呂が一つ、露天が一つで、熱めの湯であった。18 時から夕食、あか牛の溶岩焼きをメインのお膳で、だご汁などの郷土料理も出されて満足。もう一度風呂に入り、今朝早朝から動いた疲れもあって 22 時頃には就寝。



写真6 宿外観と夕食（あか牛の溶岩焼き）

写真7 夕食のご飯は高菜飯、汁物はだご汁 写真8 お部屋で宴会

## 2日目 2023.9.17 阿蘇 晴れ

旅の宿 阿蘇乃湯→草千里→阿蘇火山博物館→中岳火口→阿蘇駅 12:35→(豊肥本線普通宮地行き)→12:41 宮地駅 13:08→(豊肥本線普通豊後竹田行き)→13:52 豊後竹田駅 13:55→15:08 大分駅→アミュプラザ大分→大分駅 15:51→(日豊本線普通柳ヶ浦行き)→16:02 別府→ホテルシーウェーブ別府

4:00 大窪氏のアラームで目覚めるも二度寝する。以後断続的にアラームが鳴るも、7:40 まで起きず。8:00 から朝食、オーソドックスな和食膳であった。



写真9 宿の朝食

飯の後に朝風呂を浴びて、9 時過ぎにチェックアウトし、阿蘇山を登って草千里へ向かう。パノラマラインの道沿いには牧草地が広がり、美しい景色の中で牛が草を食べていた。草千里の駐車場待ちもなく、すんなりと入れたが中は混んでいた。阿蘇火山博物館で、火口まで行けるとい話を聞いたので、火山博物館を見学してから火口へ向かう。日本一のカルデラはスケールが大きく、見どころ満載で、噴火の歴史も長いことが分かりよかった。

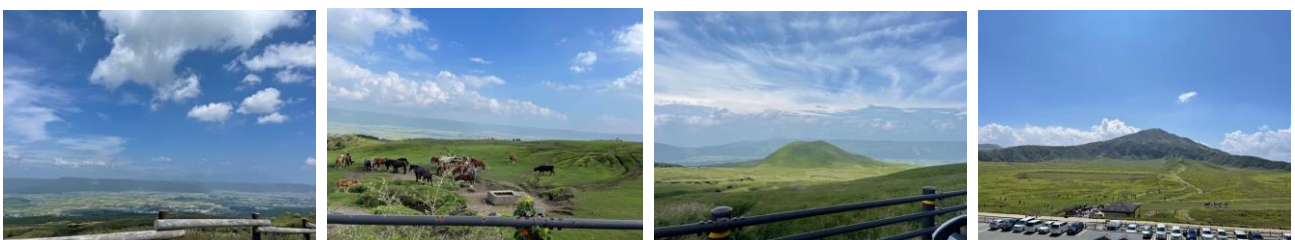


写真10 阿蘇パノラマラインの景色と米塚、草千里ヶ浜

火口までは車で15分ほどで到着。途中から有料道路になり、往復で800円かかる。火口も混んでいたが、中岳第一火口の底には硫黄の結晶らしき黄色い岩が見え、水が溜まっているのかわからないが噴煙を上げていた。



写真11 中岳第一火口と大窪氏

写真12 馬力丼といい駅舎の宮地駅

11:40頃に火口を出発し、阿蘇駅へ戻った。帰りのパノラマラインは草千里の駐車場待ち渋滞を横目に下った。大窪氏もテンションが上がってきたようで、ノリノリであった。給油して12:15頃にレンタカーを返却して、道の駅で弁当を買った。馬肉が有名な熊本なのと、阿蘇あか牛は昨日宿の夕食でいただいたので、「馬力丼」にした。12:35発の宮地行き普通列車で12:41宮地着。隣のホームには臨時特急の「かわせみ やませみ」が停車していた。30分弱時間があるので馬力丼をいただく。馬肉の醤油煮がたくさん乗っていて、淡白な肉ながら非常に美味しい。



写真13 やませみ かわせみ号と山越えの普通列車

ベロリと平らげて、再び改札に入り13:08発豊後竹田行き普通列車に乗り込む。真っ黄色の気動車1両で、ボックスシートに着席。側面には「Y-DC125」「YELLOW ONE MAN DIESEL CAR」などと書いてあるデザインであった。九州の車両は、工業デザイナーの水戸岡鋭治氏が手がけた奇抜なデザインの車両が多い。熊本からの特急あそ1号の接続を受けて発車。この区間は普通列車5往復、特急2往復の閑散区間である。宮地を出ると、外輪山に取り付くため大きくカーブし、ゆっくりと勾配を登ってゆく。途中開けると阿蘇谷を一望でき、長いトンネルを抜けると外輪山を突破して九州で最も高い駅波野である。標高754mで、小海線には遠く及ばないものかなり高いところである。



写真14 阿蘇谷の車窓と波野駅

写真15 玉来駅と豊後竹田駅

坂を少し下って滝水を出ると、大分県に入って森の中をカーブしながら下ってゆく。こじんまりした駅舎の玉来駅を過ぎるとすぐ終点の豊後竹田駅に到着した。向かい側のホームにすぐに接続する13:55発大分行き普通列車が待機していた。広い構内だが一部を留置線として使っているだけのようで、半分くらいの線路は錆び付いていた。竹田は「荒城の月」の作曲で有名な瀧廉太郎の出身地で、岡城跡が観光地になっている。駅舎も城風の建物で、発車メロディにも「荒城の月」が流れていた。

(次号につづきます)

## 宮本茶園 宮本透

梅雨明け直後で真夏の日差しが照り付ける猛暑の日でした。県農業技術センターの研修会で朝から更新剪枝の技術指導を受けていたのですが、午後の作業が始まり1時間程たつと剪枝機を持つ手が痙攣して足がふらつきだしました。意識がもうろうとして焦点が定まらず、例えるなら酒を飲み過ぎて酩酊状態になった時のようでした。私の異変に気付いた先生たちから「宮本さんやばい、熱中症ですよ！機械操作は危険なので今日はもう作業を止めましょう」と声を掛けられ、木陰に連れていってもらいました。10分程横になっていると意識が戻って会話ができるようになりましたが、熱中症になったのはショックでした。

この季節には田畑で野良仕事していた老人が夕方になっても帰宅せず、家族が捜すと倒れて亡くなっていたというニュースを耳にします。私は毎日足柄茶リシール缶をガブ飲みしていますが水分補給だけでは防げない熱中症の恐ろしさ、身をもって体験しました。今は昼食後日差しが傾くまで昼寝し、健康管理に心がけています。

### ・藤野茶業部佐野川茶の神奈川県茶品評会入賞

藤野茶業部今年度の茶葉摘採はJA神奈川つくい藤野支店職員の尽力があり、収穫した生葉は刈り始めから3時間以内に全てチャピュア清川茶工場へ搬送する事ができました。佐野川茶用荒茶を品評会出品茶にしましたが、工場長から「とても良い荒茶だから、品評会出品まできちんと管理すれば入賞するだろう」と誉めていただきました。品評会上位入賞者は温度・湿度・臭気・光が悪影響を与えないよう、保管に細心の注意を払って荒茶を出品しています。藤野茶業部出品茶は2022年に愛川工場出品の心構えを研修するまで下位十傑が指定席、宮本茶園は2018年初出品茶が120点中120位でした。愛川工場で学んだ品評会出品茶準備技術が功を奏して順位が上がり、今年はチャピュア清川工場長の言葉を励みに出品茶準備に取り組みました。

7月7日相模大野駅ビルにあるさがみはらアンテナショップ・サガミックスで佐野川茶の新茶試飲会を企画していただきました。軍刀利神社で汲んだ名水を沸かし、急須で淹れた新茶を紙コップに分けて買物客に試飲していただきました。店頭では上級煎茶と特上煎茶を販売、試飲には特上煎茶を使っている事を説明すると多くのお客様が「こちらをいただくわ」と高価格の特上煎茶を選んでくださり、入賞の手ごたえを感じました(写真①)。

7月18日神奈川県茶品評会審査が行われました。藤野茶業部は茶草場農法で栽培している茶園の荒茶を4点出品しましたが、全て入賞する事ができました。2018年佐野川茶誕生から始まった藤野茶業部佐野川茶相模原ブランド構築の取り組み、ようやく結果を出す事ができ感無量です。先生からは「無農薬での入賞は誇ってよい、快挙ですよ！」とお祝いの言葉をいただきました。20日開催されためぐりんず感謝祭では早速入賞報告ポップが売場に掲示され、出荷者組合ブースで水出し冷茶を来店のお客様に試飲していただきました(写真②③)。



①



②



③

### ・夏の茶仕事

摘採作業が終わると茶農家は梅雨入り前に中切り更新剪枝、梅雨期間の6月下旬～7月中旬に夏整枝作業を行います。作業によって剪枝機・浅番刈機・刈ならし機と機械を使い分けますが、どれも2人で操作する機械で取り扱いには危険が伴います。佐野川でこれらの機械を扱える人は多くないので整枝作業の人員確保にはいつも悩まされます。茶栽培に取り組んでいる市民グループも同様の問題を抱え、和田地区の夏整枝はみちくさの会と協同で取り組む事になりました。2日がかりの作業になりましたが、今後も継続したい事業です(写真④)。

夏整枝作業に引き続いて、夏肥を施します。和田茶園の急斜面で20kgの肥料が入った撒布器を背負っての施肥作業をしていた時の出来事です。猪の掘った穴に足をとられ転び、ひっくり返った亀のようにもがいたのですが起



き上がりませんでした。撒布器を降ろして立ち上がりましたが、肥料は半分以上こぼれ落ち悲惨な状況です。昨年副部長が「20kg を背負える宮本さんは若いな。俺は肥料袋半分しか背負えないよ」と呟いた言葉を思い出し、急斜面での転倒は大怪我につながると反省しています。夏肥作業後は茶園の草刈りとつる草取りです。7 反の除草作業は無限ループで終わりが見えませんが、来年の品評会入賞を目標に精進続けています(写真⑤⑥)。



④



⑤



⑥

## ・第 46 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の花卉栽培は 5 回目となり、今年はヒマワリ 1500 本・ベニバナ 100 本・ヒャクニチソウ 100 本を植え付けました。播種時期と茶葉摘採作業が重なり時間をやりくりして準備していますが、加齢に伴い年毎に仕事にかかる時間が長くなりこなす量が少なくなっている事を感じています。橋本さんや高村さんからは「無理をしないように、負担なら止める事も考えなさい」と諭されています。

追悼会に先立つ今年の神奈川朝鮮中高級学校フィールドワークは藤野茶業部活動と重なり、献花用生花は前日に用意しました。夕方まで茶園の草刈りに追われ、花卉畑で生花を収穫し花束が作り終えると辺りは真っ暗でした(写真⑦)。7 月 27 日は早朝より相模原市教祖の先生たちとヒマワリ・ヒャクニチソウを収穫、会場準備に取り組みました。28 日追悼会当日はたくさんの参加者が侵略戦争犠牲者に献花してくださいました。橋本さんたちの助言はありますが、体が動く限り花卉栽培に取り組みたいという気持ちが強くなりました(写真⑧⑨)。



⑦



⑧



⑨

## ・夏の雑穀畑

昨年秋に栽培講習会が終了して訪ねる人がめっきり少なくなった雑穀畑ですが、ちーむゴエモン活動の小麦・大豆栽培と INCH 活動の雑穀栽培は継続しています。小麦は 6 月下旬に 3 日かけて刈り取り、ヤギ苑で脱穀していただきました。昨年は植え付けに失敗して収穫できなかった大豆は、7 月になってしまいましたが津久井在来大豆と借金なし大豆を播種しました。鳥害対策に不織布を掛けたので、発芽が遅れ鳩に食べられた箇所以外は順調に生育しています。小麦の天日干しが終わり、大豆収穫で来年の醤油原料は確保できそうです(写真⑩⑪)。

8 月 4 日植物と人々の博物館メルマガを読んだ栽培講習会参加者が雑穀見本園の防雀ネット張りを手伝ってくださいました。キビは 7 月下旬出穂、収穫まできちんと管理して今年もしっかり種継します(写真⑫)。



⑩



⑪



⑫

※佐野川での雑穀栽培に興味のある方は宮本（携帯：090-2205-8476  
e-mail：kwangjuu1980@yahoo.co.jp）へご連絡ください。



暑い日が続きますが、田畑に目を向けると夏野菜が彩りよく実っています。上岩雑穀畑を始めとする雑穀栽培見本園でも出穂を向かえ、稔りが待ち遠しいです。

植物と人々の博物館では、植物標本・民具・文献資料や書籍の収蔵・整理を続け、連携しているタイ・日本自然クラブに関する展示の再開も予定しています（下段写真：最近の整理状況）。森とむらの図書室（<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>）として総計 8,000 点ほどの資料・書籍になる見込みです。選別・整理（リスト作りや番号貼りなど）に引き続きご協力頂けると嬉しいです。これらの社会的共通文化財をぜひ多くの方がご利用くださり、将来には公共の場所を確保し、広く公開・活用できる形へ繋げたいと考えています。電子書籍の記録も随時更新していますので、植物と人々の博物館公式 HP（<http://www.ppmusee.org>）をご訪問下さい。民族植物学ノオト第 18 号の発行も予定しておりますので、ご意見などを自由にお寄せください（原稿締切：2024 年末）。

・自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来年 2025 年に創立 50 周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめており、下記で一部公開を始めています。

<https://www.milletimplic.net/archives/historyinch2025.html>

・第 35 回日本環境教育学会大会（江戸川大学、2024 年 8 月 29 日～9 月 1 日）において、研究員が関連する一般口頭発表と自主課題研究が予定されています。関連の方々は、是非会場でご議論下さい。

8 月 31 日（土） 口頭発表（対面）10:00～10:15

31B04 幼小接続期の教育課程における「食環境教育」の可能性（井村礼恵）

31C04 環境学習による心の構造と機能の文化的進化（木俣美樹男）

9 月 1 日（日） 自主課題研究（対面）15:30～17:30

212 講義室 自主課題研究② 希望を創る環境学習を求めて（代表 木俣美樹男）

最新情報は大会 HP（<https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601>）をご確認下さい。

この他にも博物館研究員の学びを中心とした（一般参加希望者には一部 zoom 公開）環境学習セミナーを再開する案が出ています。また詳細が決まりましたら、メルマガなどでお知らせします。



# 2025年に自然文化誌研究会は『創設50周年』になります

自然文化誌研究会 事務局長 黒澤友彦

## 「50周年って何の話か？」

実は来年、自然文化誌研究会は創設50周年の節目の年を迎えます。これまでも15周年、20周年、30周年、40周年と記念事業を行ってきました。50周年を超えるとこれ以上の節目の周年って100周年になってしまう・・・100周年って誰が生きているんじゃない、今ならまだまだ創設期の人達も元気なので、本会の運営委員会にて2025年に「50周年記念（企画）」の開催を決定しました。開催は2025年10月。ここまでは決まっています。会場は本会の発足した東京学芸大学で開催するか、現在の拠点である小菅村で開催するか、zoomを使ってオンラインで開催するか、記念誌を発行するのか、探検隊を出すのか・・・これから50周年の企画委員？実行委員？を決めて話を進めていく予定です。

## 「自然文化誌研究会」の歴史

1975年に東京学芸大学にて木俣美樹男氏が「自然文化誌研究会（学大探検部）」を創設。1981年に同じく東京学芸大学にて塚原東吾氏が「冒険探検部」を創設。1985年にその2つが合併して「自然文化誌研究会冒険探検部」となった。1988年より東京学芸大学の公開講座「子どものための冒険学校」を運営。現在の「こすげ冒険学校」、「ちえのわ農学校」に継承されている。「自然文化誌研究会」は2004年に東京都の認証を受けて「NPO法人自然文化誌研究会」となる。ちょうどその頃に、活動のフィールドを現在の小菅村とし、小菅村での活動も20年が経過。一方、「冒険探検部（東京学芸大学のサークル）」についてはコロナ禍のタイミングで最後の部員が卒業し、部室も無くなり、終わってしまったのか、消滅なのか・・・？

## 「小菅村での20年の動き（くろさわの個人視点）」

事務局の私は現在47歳。ウチの会に関わったのは1996年、東京学芸大学1回生の19歳。事務局長になったのは大学卒業の24歳（ウチの会は事務局が1人なので最初から事務局長）。東京学芸大学の農園（現環境教育研究センター）で農夫と掛け持ち勤務を経て小菅村に移住したのが26歳。事務局長は4代目で、木俣美樹男さん→岩谷美苗さん（現在 樹木医）→小川泰彦さんから引き継ぎました。

2004年、小菅村で古民家を借りて自然文化誌研究会の拠点としました。井村礼恵さん（あべちゃん）から、小菅村の人達を紹介してもらい、本会の事務局給与的に副業は必須なので「木下養魚場」を紹介してもらい、今も2足の草鞋で生業としています。途中、事業拡大を目指し、事務局も2人体制で菱井優介さん（ひっしー）と古民家で共同生活もしていました。いつものキャンプ場（現清水バンガロー）に若狭浩二さんをはじめとしたログビルダー達とログハウスを建てました。当初は小菅村の森林資源を活かすということも意図した「ログビルダー養成講座」でした。会員のみなさんがキャンプ場に泊まれるようになったので、そのタイミングで古民家は返却し、キャンプ場と「植物と人々の博物館（ホームページあります）」が、小菅村内での拠点となっています。ログハウスはキャンプ場に2棟+トイレ棟、そして我が家も建ててもらいました。「こすげ冒険学校」は今年で18年目の開催となりました。

植物と人々の博物館では、「エコミュージアム日本村構想」、「雑穀の普及啓発事業」、「FAO世界農業遺産の申請に向けて」、小菅村の民具を整理して公民館機能との併設など、多くの事業を小菅村と協力体制で展開。小菅村と東京学芸大学は現在も「社会連携協定」を継続しています。

コロナ禍のあたりで子どもが生まれたので、冒険学校の本番は現場から外れて、子守りと養魚場勤務を優先しながら事務局として対応しています。この文章を書いているちょうど今、妻と息子は本会主催の「タイ環境学習キャンプ」に参加していてバンコクに無事到着したというLINEが入りました。という事で、本会と小菅村にどっぷりと浸かりながら生きています。

## 「最近の小菅村」

以前は会報ナマステで小菅村の事を連載していたが、最近は寄稿を頼む癖が・・・（今回はバタバタして寄稿依頼を逃し、1ページ急いで埋めなくちゃいけないから自分で書いてます。前回は、はるちゃんに「たのしい村暮らし」をかいてもらった・・・）

たまには小菅村の話を。現在の人口は620人、20年前は1,000人居たぞ。既に過疎で「限界集落」なのか。保育所の年長クラスは0人。小菅小学校初の入学式無しが4月に迫っている。6月の村長選挙は投票率95.36%の296票で現職が当選、1票が重い！20年前はクーラーある家はまれだったが、今は標準となってきた（我が家も使っている）。今年はクマの被害が多い、サルも収穫しようと思う前夜にトウモロコシを100本獲られた話も聞いた。小菅の湯は「こすげ冒険学校」の最中に30周年を迎えていた。

# 「冒険学校 まふゆのキャンプ」

# 12.27~29(2泊3日)

毎年恒例の「冒険学校まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか？

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待っています！！

日程：12月27日（金）～29日（日）

場所：清水バンガロー（小菅村のいつものキャンプ場）

宿泊：一人用テント・ログハウス・野宿など

対象：小学校3年生～中学校3年生

定員：18名（先着順です）

参加費：会員¥28,000 非会員¥30,000

（奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などを含む）

申込み：ハガキ・もしくはE-mailに郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢（学年）・性別・電話番号を記入の上、事務局まで参加をお伝えください。



<国土緑化推進機構 令和6年度「緑と水の森林ファンド」助成事業です>

## ○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40年以上にわたって活動を続けています。2004年からNPOとして再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エココミュニティづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円

学生会員：3,000円 賛助会員(個人・団体)：10,000円

家族会員：6,000円 準特別維持会員：50,000円

特別維持会員：100,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

雑穀街道特別会員：1口1,000円から

・成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：店名 00八 普通口座

口座番号 9479450

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



# ナマス 155号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2024年8月25日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

<発行> 特定非営利活動法人

## 自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村3337-2

TEL: 090-3334-5328 (事務局 黒澤)

E-mail: npo\_inch@yahoo.co.jp ←変更しています！！

H P: <http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html>